

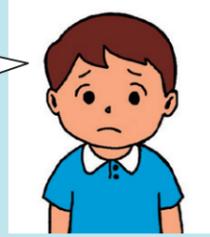
<授業改善事例> 肢体不自由教育部門の自立活動の指導の充実（心理的な安定）

知的障害教育部門での指導法を活用した、学級担任が行う自立活動の指導の充実



① 気持ちの整理が苦手な嫌な記憶を何度も思い出してしまう

チーム戦のゲームで負けたりすると、とっても腹が立ったり、「自分が悪いんだ」ってイライラしたり涙が出たりしてしまう。家族や先生には、ぼくの気持ちがうまく伝わらないみたい……



Aさん
(肢体不自由教育部門)



担任のA先生
(肢体不自由教育部門)

嫌な記憶が思い出されてしまい、感情があふれ出してしまうことがあります。じっくり話を聞こうとしても、うまく表現することができず、なかなか気持ちを整理することが難しいようです。知的障害教育部門には、情緒障害教育の実績がたくさんあるので、相談してみようかしら。

② 知的障害教育部門のB先生からのアドバイス

- ◆ まず、もやもやした気持ちを書き出しながら、一緒に気持ちを整理することから始めるのが良いと思いますよ。
- ◆ 見えない心の中を視覚化することは、気持ちを整理する際に役に立つと思います。



B先生
(知的障害教育部門)



「きもちのコップ」というイラストを使って、怒りや悲しみ等感情の高まりを視覚化するという方法はどうでしょうか。

- ・ 児童の気持ちに寄り添いながら、安心して話せるように、個別指導室を利用しましょう。
- ・ ノートの左側にはあらかじめコップの絵を印刷し、自分の気持ちがどの程度なのかを、先生と一緒に色を付けましょう。右側にはそのときの気持ちを文章で書き、自分で振り返ることができるようにしましょう。

③ 学級での実践

なんだかイライラするな～。まったくもう……



・ 本人が十分理解でき、納得できる方法で取り組むようにします。



Aさん、今の気持ちをノートに書いてみましょうか。気持ちのコップはどれくらいかな。そのときの気持ちも文章で残しているので、後でも読み返せるね。



先生に話を聞いてもらって自分の気持ちを話したら少しすっきりした。次の時間もがんばるぞ！



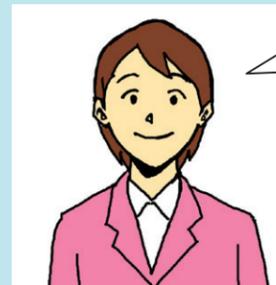
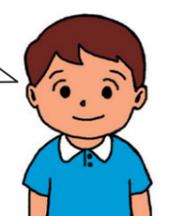
気持ちのコップを書いたノートはいつでも自分で見られる場所に置いてあります。

<気持ちのコップとは？>

コップに水が入っているイラストを見ながら、自分の感情の高まりの度合いを視覚的に確認します。自分の気持ちが整理できてきたら、その嫌な気持ちや不安な気持ちを解消するために今できる対策を一緒に考えます。

④ 児童の変容

突然イライラしたり、悲しくなったりすることが減ってきました。先生がぼくの気持ちを一緒にノートに書き出してくれるので、「気持ちのコップ」を見ると、ぼくの心の中がどのくらい一杯か、よく分かるようになってきました。



気持ちのコップを書いた後は、友達にも優しく、表情が明るくなります。自分の特性を理解し対処していく1つの手段を知ったことで、教師や大人のアドバイスを素直に受け入れられるようにもなってきました。

<授業改善事例>知的障害教育部門の自立活動の指導の充実(1)



AAC (拡大代替コミュニケーション) を活用し、主体的なコミュニケーション手段の充実を図る。

① 改善の課題=コミュニケーション手段の習得

【知的障害教育部門 小学部 Aさん】

- ◆ 発声が不明瞭なために、要求がうまく伝わらずにあきらめてしまうことがある。
- ◆ 簡単なシンボルのマッチングは可能。



知的障害教育部門 B先生

朝の会などで、もっと積極的に活躍できるようになれるといいな。
今は写真カードなどを中心に使っていますが、Aさんが自分の要求をうまく伝えられる方法はないでしょうか。

② 肢体不自由部門のC先生からのアドバイス

肢体不自由教育部門では、AAC (拡大代替コミュニケーション) を利用した学習活動を積極的に取り入れています。児童・生徒の発達段階や実態に合ったVOCA (会話補助装置) などを活用できるようになると、集団の中で力を発揮できるかもしれません。

ATとは?

Assistive Technology : 支援技術のこと。眼鏡・補聴器・リモコン・スイッチ・携帯電話・車椅子・パソコン・AAC機器など

AACとは?

Augmentative and Alternative Communication : 拡大・代替コミュニケーションのこと。ジェスチャーやサイン、手話、点字、VOCAなど

VOCAとは?

Voice Output Communication Aid : 携帯用会話補助装置のこと



肢体不自由教育部門 C先生



ビックマックスイッチです。簡易なボイスメモです。



テックトークです。選択した絵を押すと、録音した声ができるようになっています。



トーキングエイドです。50音で入力し、音声で読み上げることができます。

③ 機器の活用



はじめはVOCAに慣れていくことから始めました。ビックマックは入力された言葉がワンスイッチで出力されます。



次は、写真カードとマッチングさせながら、伝えたい内容を選択していきます。ビックマックにも写真を貼ってあります。



写真カードの選択が適切にできるようになったので、テックトークを使ってみます。

★ C先生からは、VOCAの使用について

- ・ 音声言語での表出が難しい児童に有効である
- ・ 理解が深まるにつれてボタンの数を増やすこと
- ・ ニーズに応じて計画的に取り組むこと

などのアドバイスを頂きました。



④ 連携のポイントとその成果

★ 指導改善を行ったことにより、

- ・ 朝の会の進行を自立的に行うことができるようになりました。
- ・ VOCAの使用に積極的な姿勢が見られるようになりました。



自分から、ほかの児童にお願いすることができるようになりました。



VOCAを活用することで、伝達手段が広がり、コミュニケーションへの意欲がより高まることになりました。C先生と相談しながら、更にコミュニケーションの幅を広げられるようにしていきたいと考えています。